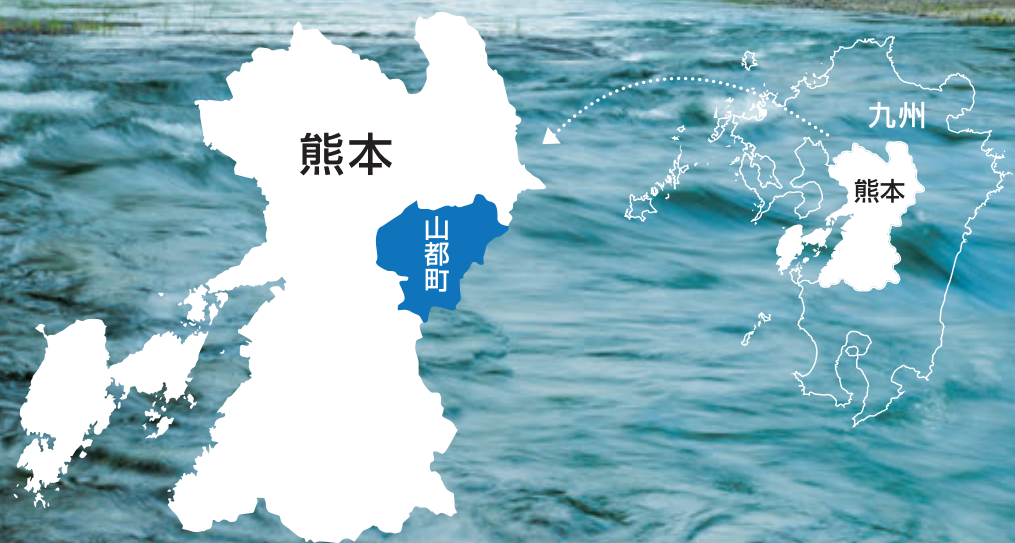


たいせつなふるさとで、
たいせつなひとを診る。



熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療支援センター内
熊本市中央区本荘1-1-1
TEL:096-373-5627
<http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>
ご感想、ご意見お待ちしております。



写真/馬見原橋（山都町）

ココ、熊本で、地域の医療を支える。
CocODE! ココデ

2022 Autumn vol.4

ココ、熊本で、地域の医療を支える。 CocODE! ココデ

2022 Autumn
vol
4

Top Interview

山都町エリアと、
わたしが交わした
3つのミッション

山都町包括医療センターそよう病院

副院長・総合診療部長

TAKAHIRO TAKEMOTO

竹本隆博先生

写真/鮎の瀬大橋（山都町）

Take Free

熊本県地域医療支援機構 広報誌

CONTENTS

- 02 Greeting
上益城・山都町エリアの地域包括ケアシステムの
拠点として住民を守る
そよう病院 院長 山下太郎先生
- 03 特集1
山都町エリアと、わたしが交わした3つのミッション
そよう病院 副院長・総合診療部長 竹本隆博先生
- 07 特集2
Think globally, act locally
山都町のDOCTOR-C
頑張る若手総合診療医対談
藤本千里先生×小林博先生
FUJIMOTO CHISATO KOBAYASHI HIROSHI
- 09 がんばる先生の、がんばらない時間
そよう病院 甲斐義久先生・中山明香里先生・高木友理子先生
- 11 患者さまからのメッセージ
坂本満喜雄さん・ふなこさん
- 13 教えて先輩！
若手総合診療医×医学部生との座談会
平賀円先生
- 15 医学部学生からのメッセージ
- 16 医療まめ知識
熊本大学病院 総合診療科 佐土原道人先生
- 17 「医師少数区域経験認定医師制度」ってなに？

COCODEは、
熊本県内で活躍する
医師の姿などを通じて、
医師を志す学生や
地域の皆さんに
地域医療の魅力を伝える
マガジンです。

GREETING

Our mission

上益城・山都町エリアの
地域包括ケアシステムの
拠点として住民を守る



山都町包括医療センターそよう病院 院長

山下 太郎先生

1991年熊本大学医学部卒業後、1998年医学博士の学位取得。2014年熊本大学病院特任教授などを経て、2020年、前院長である水本誠一名誉院長の後任として、山都町包括医療センターそよう病院院長に就任

九州の中心で 地域住民に親しまれる病院を目指す

山都町の公立病院であり、上益城郡唯一の救急告示病院でもあるそよう病院は、広範囲で医療サービスを提供しています。また国民健康保険診療施設(国保直診)として、医療に加え、保健、介護、福祉サービスなどを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の拠点として活動しています。

かつて宿場町として栄え、自然豊かな山都町にある当院は、救急医療やへき地診療など、多種多様な疾患の診療を通じ、さまざまな経験を積むことができます。産休、育児時短など、子育てをしながら働く医師も複数名在籍しており、若手医師たちは、包括的な医療への研鑽を積みながら地域医療に貢献しています。

少子高齢化が加速する地域の医療においては、医療従事者の人材確保が課題です。へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。

山都町エリアと、 わたしが交わした 3つのミッション

TAKAHIRO TAKEMOTO

宿場町として栄えた商店街で。“このまちの健康を支えたい”

九州のほぼ中央に位置する山都町。江戸時代に宿場町として栄えた馬見原地区は、風情ある石畳を挟むように昔ながらの商店が立ち並び、漆喰壁の建物からは往時の賑わいがかがえます。

高齢化率が50パーセントを超えるこの地で地域医療に尽力するのが、竹本隆博先生です。商店街を歩けば、お店の人や買い物客らに次々と声を掛けられる竹本先生。「ここは、おいしいコロッケの店や居酒屋さんもあって、人情あふれるいい街なんですよ」。

総合診療医として、救急医療、訪問診療・在宅看取りなど幅広く活動し、地域の健康のために尽力する竹本先生。同院に付属する3か所のへき地診療所の一つ「緑川診療所」の所長としても、患者さんの声に耳を傾けます。

山都町包括医療センターそよう病院
副院長・総合診療部長

たけ もと たか ひろ

竹本 隆博先生

熊本県鹿本郡植木町（現熊本市北区）出身。1984年に自治医科大学卒業し熊本赤十字病院で研修後、国立療養所三角病院、独立行政法人国立病院機構熊本南病院、五ヶ瀬町国民健康保険病院などの医療機関に勤務。2013年そよう病院に着任し、総合診療医として活動中。

竹本隆博先生が誓った

3 Missions

Mission 1

広大なエリアで救急医療の維持
訪問診療・在宅看取りの継続

Mission 2

高齢者が参加できるスポーツを振興

Mission 3

大腸内視鏡検査・治療を地域で

すべてを診る 1人1人を診る 最期まで診る



戦後の混乱期

医療でこの地を支えた先人の思いを胸に

中3の時、伯父が食道がんを患い、急激に痩せて亡くなったことに衝撃を受け、苦しんでいる人を治せる医者を目指すことを決意。自治医科大学を卒業後、県内の医療機関などを経て、2013年にそよう病院に赴任しました。

山都町のみならず隣県の実業家の五ヶ瀬町からの患者さんも多く、県域を越えた広いエリアで、外来業務、訪問診療・在宅看取りを365日24時間体制で行う同院。「山都町で完結できる医療をできるだけ提供し、完結できないものも高次医療機関と速やかに連携して、地域の医療を支えたい」と意気込みます。

そんな熱い思いを支えるのは、1945年、無医村だったこの地に熊本市から赴任した東陽一医師の「へき地にも文化の中心となるような病院を」という言葉でした。

当時は戦後の混乱期。現在のように橋や道路も整備されておらず、速やかに医療を受けることができずに命を落とす人が絶えませんでした。70年以上前に現在のそよう病院の礎を築いた医師のスピリッツは「今の私たちに脈々と受け継がれているのです」。



戦後まもなく馬見原に赴任し、そよう病院の礎を作った東陽一医師ら（「そよう病院開設65周年記念誌」より）



馬見原商店街にて。「自分がやってきたことを、後進に伝えたい」

忘れられない笑顔を胸に

病気を未然に防ぎ、健康に過ごせるよう、運動やスポーツ振興にも積極的な竹本先生。自身も五ヶ瀬町の住民とミニテニスを10年間続けています。「ミニテニスは、けがも少なく、シニアの皆さんの健康増進にぴったり。80代の人でも元気にプレイしていますよ。運動を習慣にすることは健康の第一歩ですから、年齢を問わず、色んな人を誘って楽しんでいます」と話します。

大腸内視鏡検査治療、褥瘡治療、外来外科など、さまざまな治療を行う竹本先生。忘れられない患者さんとの思い出を話してくださいました。「長年がんを患っていた患者さんのご自宅に往診した時、強い痛みで苦しんでおられたにもかかわらず、私が到着するとニコリ笑顔で迎えてくださったんです。その方の笑顔を胸に、これからも一人ひとりの患者様やご家族に寄り添い、丁寧に向き合うという当たり前のことを続けていきたいですね」。



「ポリバクトミーを、地域で受けられる体制を整えています」と話す竹本先生



ミニテニスで高齢者のスポーツ振興に尽力「学生時代野球部だったので、ボールを打つのは得意です（笑）」



「体調はいかがですか？」と声を掛けながら処置を行う竹本先生



若手総合診療医対談



Think globally, Act locally!

そよう病院

ふじ

もと

ち

さと

藤本千里先生

そよう病院

こ

ばやし

ひろし

小林博先生

育児時短勤務など
ライフステージに応じた働き方を実践！**小林:** 藤本先生ご結婚おめでとうございます。**藤本:** ありがとうございます！小林先生も“イクメン”頑張っておられますね！**小林:** はい(笑)。6月に二人目の子が生まれて、忙しくも楽しい毎日です。**藤本:** そよう病院は、産休を取ったり、非常勤勤務、常勤の育児短時間勤務など、子育ての状況に応じて、働き方を変えながら仕事と両立しておられる女性医師が複数名いらっしゃいます。先輩方を見ていると、将来の自分の姿が想像できて、安心して仕事に取り組むことができます。**小林:** 僕も妻の出産前後は、当直のシフトを外してもらうなどの対応をしていただき、助かりました。**藤本:** 「困った時はお互いさま！」ってカバーし合えるような人間関係がサイコーです(笑)。**小林:** 山都町は自然豊かで子育て環境も抜群ですもんね。休日は、おしゃれなカフェにドライブしたり、最近、馬見原商店街に美味しいドーナツ屋さんもできたので行くのが楽しみです。

ある日の藤本先生のタイムスケジュール

06:30	起床・朝食
08:30	出勤後カンファレンス、回診など
09:00	外来
12:00	昼食
13:00	住民へのワクチン接種など
16:00	往診
19:00	帰宅後、夕食・入浴・団らん
23:00	就寝

スキルアップしながら
地域医療に貢献したい！**小林:** 往診、外来、救急医療、健診、へき地診療所、施設嘱託医など、さまざまな役割を経験することは責任も重いのですが、自分で考えたり、やったことのないことにチャレンジすることで、スキルアップできている実感があります。**藤本:** そうですね。患者さんや地域の人の温かみを感じることができるのも、地域医療の大きな魅力の一つだと思います。ご自宅で最期を迎えたいと希望する患者さんも多くおられます。訪問看護のスタッフやご家族と協力しながらご自宅で看取り、最期は穏やかな顔をなさっていた経験は忘れられません。むしろ私の方が地域の方に支えられて成長させていただいているという感覚です。**小林:** そよう病院は、サブスペシャリティを持った先生方もおられるので、専門の先生に相談しながら診療できる環境も心強いですね。これからもチーム一丸となって患者さんに寄り添う医療を実践し、支えていきましょう。

ある日の小林先生のタイムスケジュール

06:30	起床・朝食
08:00	娘を保育園に送る
08:15	出勤後カンファレンス、回診など
09:00	外来
12:00	昼食
13:30	北部診療所で外来
16:30	病院に戻り、病棟業務
17:30	保育園にお迎え
19:00	帰宅後、夕食・入浴、子どもを寝かしつける
20:00	洗濯など
21:00	洗濯など
23:00	就寝

がんばる先生のがんばらない時間

AKARI NAKAYAMA



そよう病院
中山 明香里先生

歴史ある商店街や身近な自然を、子どもたちと散策♪

10年前にお世話になったそよう病院に、縁あって勤務させていただいています。去年は週2回、非常勤で勤務し、今年は常勤で育児短時間勤務しており、無理なく仕事と家庭を両立することが出来ています。休みの日は、子どもたちと一緒に馬見原商店街を散歩したり、家の近くでカブトムシを捕まえるなど、のんびりと過ごしています。



カブトムシみつけた♪

YOSHIIHISA KAI



そよう病院
歯科医師
甲斐 義久先生

ガーデニングや野菜作りを楽しんでいます

山都町に来て今年で28年目です。旧蘇陽町時代は行政と連携し、歯科保健と訪問歯科診療に取り組みました。そよう病院歯科となってからは、熊大歯科口腔外科と連携をとり、より高次の歯科医療につなげることができるよう環境づくりをしています。プライベートでは、子育てが一段落し、ガーデニングや野菜づくりなど、官舎での単身赴任ライフを満喫しています。



庭で収穫したラベンダー、ルバーブ、みょうがなど

YURIKO TAKAGI



そよう病院
研修医
高木 友理子先生

キャンプ場に蘇陽峡! アウトドアが楽しめます!

研修医と大学院生の二足のわらじ生活を送っており、平日は病院勤務、土日は熊大の大学院で実験をしています。今年はフルマラソンに挑戦する予定で、仕事前に幣立神宮をランニングしています。大学6年生の時に当院で研修した時は、五ヶ瀬でスキーを楽しんだり、服掛松キャンプ場でテント泊し、蘇陽峡でカヤックに挑戦しました。



五ヶ瀬でスキーを楽しみました♪

「まきちゃん」と 「ふなちゃん」の物語。

「いつまでも仲良く元気に暮らしたい」



坂本満喜雄さん

ふなこさん

天孫降臨の地として知られ、九州でも有数のパワースポットとして人気の宮崎県高千穂エリア。県境にあるそよう病院には、高千穂エリアからも多くの患者さんが訪れます。坂本満喜雄さん(83)、ふなこさん(78)ご夫婦は、20年以上も前から診察やリハビリでこの病院に通っています。主治医は、元院長で現在名誉院長を務める水本誠一先生です。



「まきちゃん」「ふなちゃん」と互いを呼び合う坂本満喜雄さん、ふなこさんご夫婦

「振動病」と診断されて

「まきちゃん」「ふなちゃん」そう呼び合う坂本さんご夫婦。ふなこさんが17歳で嫁いで以来、ずっと仲よし。現在は2人暮らしですが、東京などに孫が5人、ひ孫が6人います。

満喜雄さんは、長年削岩の仕事をしていました。高森町にある湧水トンネルも満喜雄さんと仲間たちが手掛けた仕事です。「昔はダイナマイトで爆破して、岩を崩しながらトンネルの中ば進んでいきよったんですよ」と振り返ります。しかし、過酷な仕事の影響で、手の痛みやしびれなどに悩まされる「振動病」を発症。現在は、診察とリハビリで少しずつ快方に向かっています。「持てなかった湯のみが持てるようになって、シャツのボタンも上手に開け閉めできるようになりました」とほほ笑みます。



リハビリでは湯流浴を行い、血流を促進します

「ふなこば、うしててどっか行くとか」

また、満喜雄さんは、3年前にストレスから胃潰瘍を発症。貧血となり、意識がもうろうとし入院しました。その時、ふなこさんは、満喜雄さんの枕もとで大声でこう叫んだそうです。「「ふなこば、うしててどっか行くとか？」(ふなこを捨てて、どこかに行くつもりですか?)」。治療の甲斐があり「一日一日、元気になってくれてうれしかった」と振り返ります。



「血圧は大丈夫ですね。ほかに気になる症状はないですか?」と水本誠一先生

先生に診てもらおうおかげで、 元気に暮らせます

「水本先生は、私たちにもわかるごと、何でもしっかり説明してくれる」と話す満喜雄さんとふなこさん。定期的に診察してもらうおかげで、大事にいたらず、元気に暮らしていると話します。

満喜雄さんが「ふなちゃんが作るごちそうを食べているときが幸せ」と言うと、「まきちゃんは、優しく、お酒もたばこもしません。トンネル掘っていたからド根性もある」とほほ笑むふなこさん。「子どもたちに心配かけないように、いつまでも二人で元気に暮らしていきたい」と話します。



主治医である水本誠一先生は、2019年まで病院長として地域医療に尽力。昨年度までは毎日症例検討会で方針の指導を行い、現在も週に2〜3回の外来や常勤医の相談に応じるなど、同院にとってなくてはならない存在です

Why GP?

若手医師×学生二人座談会 総合診療医のリアルを直撃 「教えて先輩！」

阿蘇医療センター 平賀円先生(中央)
熊本大学医学部医学科5年 森嶋純平さん(右)
熊本大学医学部医学科5年 坂本萌さん(左)

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する企画！今回は阿蘇医療センターで総合診療医として働く平賀円先生に、学生二人が、総合診療医のやりがいなどについて聞きました。

聞くことをためらわない！フットワークの軽さが大切

平賀先生：皆さん、こんにちは。私は阿蘇医療センターで総合診療医として働いています。医師として7年目で、出身は熊本市です。よろしくお願いします。

森嶋：私は熊大の保健学科を卒業し、放射線技師の国家資格を取得しましたが、子どもの頃からの夢をあきらめきれず、再受験して医学部医学科に入りなおしました。遠回りしましたが、地域のお医者さんを目指して頑張っています。

坂本：私は祖父が腎臓病で闘病したことがきっかけで、医師を目指しました。

森嶋：早速質問なんですけど、総合診療医を目指す学生が、今のうちから学び備えていた方がいいなって思われることはありますか？

平賀先生：特に「これ！」というものは無いのですが、まんべんなくオールマイティに学ぶということでしょうか。仕事を始めると、地域ごと、病院ごとにルールが違い、病院が持っているリソースも違います。この病院では、この検査はできるけど、あの病院ではできない、ということがありますので、広い知識を持っていることは大切だと思います。また、患者さんと日々向き合っていると、疑問に思ったことや不安なことは、上司やほかの科の専門医に相談します。学生のうちは、聞くことをためらわない姿勢やフットワークの軽さを身に付けておくといいと思います。

坂本：ほかの科の専門医にコンサルトされることも多いんですね。

平賀先生：はい。専門治療が必要な時は、ほかの科の専門医に相談しますし、自分がまだ経験したことがないような症例であれば、大学に行った時に同じ総合診療医の先生に相談します。

最新の知見を地方のリソースでどう生かすかが課題

森嶋：近年のトレンドである専門医取得に関連して、総合診療医が取得できるサブスペシャリティがあれば教えていただきたいです。

平賀先生：現在は、新家庭医療専門医、病院総合診療専門医、地域総合診療専門医などが候補に挙がっているようです。サブスペシャリティはどんどん出てきていますので、今後もっと増えるかもしれません。私は先日、総合診療専門医の資格を取得しました。急いで取得する必要もないかなと思っています。

坂本：幅広い知識が求められると思いますが、最新の知見をどのようにして得ていますか？

平賀先生：ウェブでの勉強会などがたくさんありますので、最新の情報はたくさん入ってきます。医師にとっては有料のものでも、学生さんは参加費が無料だったりすることもありますので、学生のうちからいろんなセミナーに参加してみるのもいいかもしれません。ただ最新の知見を得たとしても、地方のリソースで、どのように生かしていくのかということは、課題で

はありますね。患者さん自身も「使い慣れていてお財布に優しい治療やお薬」を求めておられる方も多いので。

教科書通りにいかないことも。だからこそやりがいがある

坂本：総合診療医のやりがいはどのようなところだと思いますか？

平賀先生：ロボット手術が“最先端医療”とするならば、総合診療医は今後の社会に必ず必要とされる“最前線医療”だと思います。オールマイティにやれるのが魅力です。専門がないということは決してデメリットではなく、必要であれば専門医に紹介するというのもプライマリケア医として大事な役目です。意思決定、QOL、倫理観などを総合的に判断して、患者や家族と一緒に方針を決めていくというのも総合診療医としての大事なスキルです。

森嶋：経験が必要ですね。

平賀先生：そうですね。たとえばこれは僕が経験した事例なんですけど、毎日ゲートボールを楽しんでいる90歳のおばあちゃん。夕方5時ごろに電動シルバーカーで出掛けていたところ、倒れて病院に運ばれました。検査したらStanford A型大動脈解離でした。さあどうしますか？

森嶋：坂本：夕方だから、ヘリは飛ばせないですね。(心の声：「突然の質問！ドキドキ！」)

平賀先生：年齢は高齢でしたが、手術ができる病院に電話し、受け入れていただき、無事に手術を終えて帰ってこられました。

坂本：普段、元気なおばあちゃんだから、保存的加療ではなく、外科的治療をご提案なさったんですね。

平賀先生：このケースはうまくいきましたが、もちろんすべての方の治療がうまくいくわけではありません。

森嶋：教科書では、検査して、治療して、こんな風に治りますよ、ということを学びますが、教科書通りにはいかないこともあるんですね。

平賀先生：高齢の患者さんに関しては完全に治すということだけではなく、今後の残りの人生をどう生きるかという点がポイントです。

森嶋：今回はご自身の体験を含めてお話いただき、大変勉強になりました。あらためて総合診療医として自分が働くときのイメージが湧きました。

坂本：私もほかの医療従事者や患者さんとコミュニケーションをとりながら、診療していくことが大切なんだなと思いました。地域医療に貢献できるように頑張ります！

平賀先生：今後の日本の医療を考えると、総合診療医のニーズはとて高いです。総合診療を担う心強い同志が増えるとうれしいです。応援しています！

<Information>
熊本大学病院「地域医療・総合診療実践学寄附講座」のHPやSNSでは、勉強会やイベントなどの情報を発信しています！





熊本大学 医学部医学科4年
園川 仁美さん(熊本市出身)
水泳部に入っています。きつと感じることもありま
すが、それをみんなで共有でき、励まし合えるのも部活の
いいところ。現在は、臨床実習入門の授業で、病棟で
必要な基本的な実技を学んでいます。班員の仲間と教え
合いながら学ぶ過程がとても楽しく、勉強になります。将
来は、患者さんが不安を抱えているときに、的確なアドバ
イスで安心を与えられるような医師になりたいです。



熊本大学 医学部医学科3年
西山 望さん(玉名市出身)
腫瘍医学に興味があります。基礎演習では腫瘍医
学研究室に配属され、腫瘍の発生機序やがん幹細胞
仮説など勉強すればするほど興味深い学問です。部
活動は、バスケットボールに所属しています。個人
技を磨くのも好きですが、チームスポーツなので、
お互いの意識を共有できていないと勝てません。ど
うチームビルディングしていくかが難しくもあり、
楽しい部分でもあります。

Message corner

学生の“今”に迫る
「医学部学生からのメッセージ」



熊本大学 医学部医学科5年
富士登 璃子さん(熊本市出身)
カフェ巡りが趣味です。特に阿蘇や天草などに好
みのカフェがたくさんあるので、行きたいところを
調べているとワクワクします。素敵な空間で美味し
いスイーツを食べる時間は最高です。将来は、患者
さんが安心して話せるような医師になりたいです。
医師には多くの患者さんがいますが、患者さんに
とって医師は1人であることを忘れず、一人一人に
向き合うことのできる医師を目指します。



熊本大学 医学部医学科2年
松岡 りほさん(天草市出身)
医学部バドミントン部に所属しています。最初の頃
は、まったくショットを打ち返すことができなかったの
ですが、どんどん打てるようになって、今はとても楽し
いです。授業では、先生の話が理解できないことも多い
のですが、授業後に友達に聞きながら学びを深めていま
す。将来は、地元の天草で、いろんな人に気軽に相談して
もらえるようなお医者さんになりたいと思っています。



社会的孤立と健康

新型コロナウイルス感染症の流行で、外出自粛や行動制限、人と人との接触の機会の減少、地域の催しやイベントの自粛・中止を余儀なくされました。今回は、社会的孤立と健康について、熊本大学病院総合診療科の佐土原道人先生に聞きました。

Q: 社会的な関係性の減少は健康に害があるのでしょうか？

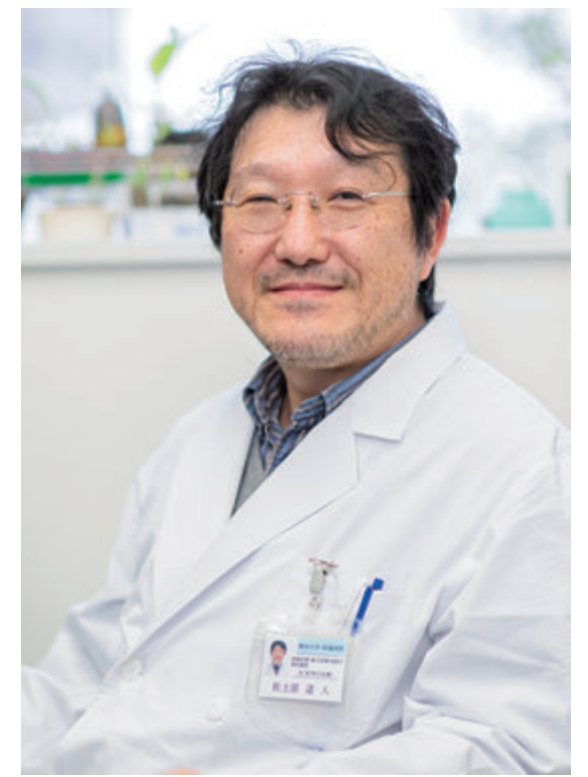
A: 仲間づきあいの欠如や喪失による負の感情を「孤独」といいますが、家族や地域と社会的な関係性や接触がほとんどない状態を「社会的孤立」といいます。社会的関係性が低くなると、心身の健康の低下や死亡率が上昇し、その健康被害は、喫煙に匹敵すると見積もられています。

Q: どうして健康状態の悪化が起こるのでしょうか？

A: 人は社会の中での役割や存在意義や価値を保ちながら生活しています。「社会的孤立」により生きること、働くことへの意欲や動機の低下につながります。社会とのつながりの低下から不健康な状態や行動を適切に認識できず、地域で利用できるサービスや互助とつながなくなるのが主な要因です。国民性もあるかもしれませんが、世界と比べると日本は、健康状態がよくないと考える割合が多く、生活の満足度も低く、社会的孤立も最も多いと報告されています。世論調査でも近所付き合いの減少、核家族化に加え単身世帯の増加も示されています。健康状態の維持には、生活様式と社会的環境の持続的な改善が必要です。

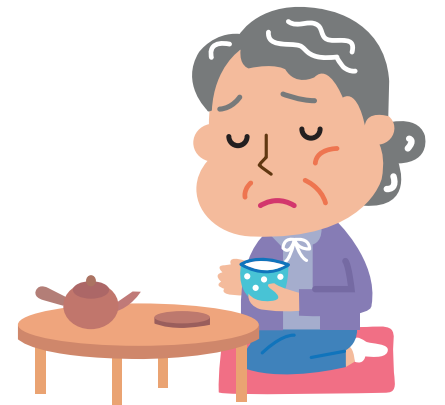
Q: ポストコロナを見据えた対策はありますか？

A: ネットワーク、規範や信頼といった社会組織特有の資源を「社会関連資本」といいます。これまでの社会関連資本を活用し、地元の催し、集まり、ボランティアへ参加することで他の人々や組織と積極的につながることをお勧めします。技術、趣味などの新しい学びを始めるのもいいでしょう。



社会的孤立まとめ

- 社会的孤立は、喫煙の害と匹敵するほど健康に悪影響を及ぼしている
- 社会的孤立により不健康状態や行動の自己認識不足、サービス利用や互助の連携不足となる
- これまでの地域のネットワークや資源を再活用して、地域活動への積極的な参加が望まれる



教えてくれたのは

熊本大学病院 総合診療科
佐土原 道人先生

ぜひ申請を！

医師少数区域経験認定医師制度

令和2年4月に始まった「医師少数区域経験認定医師制度」。
地域医療の充実を目的とし、医師少数区域等に6カ月以上勤務した医師を
厚生労働大臣が認定する制度です。
医師少数区域経験認定医師になると、医師本人にとっても、医師が勤務する
医療機関にとっても、さまざまなメリットがあります。
今回は当制度について、熊本県医療政策課の村川祐樹さんに聞きました。

地域に
貢献するぞ！

どんなメリットがある？

編：認定医師になると、どのようなメリットがあるんですか？

村川さん：今後、認定医師でなければ、地域医療支援病院の管理者になれませんので、管理者を目指す人には欠かせない認定資格です。（※ただし令和2年4月以降に臨床研修を開始した医師を管理者とする場合に限りません。）

編：ほかにメリットはありますか？

村川さん：認定医師であることを広告することができます。また認定医師が医師少数区域等において診療所等を開設する際、建築資金等の融資条件の優遇を受けることができます。

善は急げ！

「医師少数区域経験認定医師」って？

編：「医師少数区域経験認定医師」（以下、「認定医師」）とはどのような医師ですか？

村川さん：医師少数区域等に所在する病院または診療所で6カ月以上勤務（令和2年4月以降の勤務が対象。）し、診療や保健指導等に従事した医師として厚生労働大臣に認定された医師です。

申請しよう！

「医師少数区域等」ってどこ？

編：「医師少数区域等」って、どのエリアなんですか？

村川さん：「医師少数区域等」とは、「医師少数区域」または「医師少数スポット」のことで、令和4年9月時点で熊本県の場合、表のとおりとなっています。

医師少数区域

圏域名
宇城
球磨

医師少数スポット（※以下の医療機関の周囲4km以内）

圏域名	施設名
熊本・上益城	山都町包活医療センターそよう病院
	北部へき地診療所
	緑川へき地診療所
	井無田へき地診療所
阿蘇	阿蘇医療センター
	小国公立病院
	産山村診療所
八代	阿蘇医療センター波野診療所
	八代市立下岳診療所
	八代市立椎原診療所
芦北	国保水俣市立総合医療センター附属久木野診療所
	芦北町国民健康保険吉尾温泉診療所
天草	上天草市立上天草総合病院
	国民健康保険天草市立河浦病院
	天草市立牛深市民病院
	上天草市立湯島へき地診療所
	教良木診療所
	国民健康保険天草市立御所浦北診療所

熊本県健康福祉部健康局医療政策課

企画・医師確保班

村川 祐樹さん

医療機関にも
メリットが！

医療機関にもメリットが！？

村川さん：認定医師を雇用している、医師少数区域等に所在する医療機関にもメリットがあるんですよ。

編：どんなメリットがあるんですか？

村川さん：認定医師が医師少数区域等で診療を実施する際の医療レベルの向上や、取得している資格等の維持のために必要な経費を支援します。

編：たとえばどういう経費が支援の対象になるんですか？

村川さん：医師少数区域等で必要な医療等を学ぶための研修受講に必要な研修受講費や旅費を補助します。また、専門書購入費用や、専門領域のレベル維持のために他病院等で実績を積むために必要な旅費（他病院勤務経費）も補助します。

編：病院側で負担した認定医師の研修受講経費、専門書購入経費、他病院勤務経費を補助するということですね？

村川さん：はい。これらの補助により医師少数区域等で勤務する認定医師の学びの機会が増え、地域医療がより充実することを目指しています。

編：ところで熊本県には認定医師は何人おられるんですか？

村川さん：15人です（令和3年度末）。「対象であるのに、制度を知らなかった」と言われる医療機関や医師の皆さんも多いので、ぜひ活用してほしいと思っています。



活用してね！

認定のプロセスは？

編：認定のプロセスはどのようになるんですか？

九州厚生局公式ホームページ

村川さん：医師少数区域等で6カ月間の勤務が経過したら、厚生労働省（九州厚生局）に申請します。詳しい認定の申請方法については「九州厚生局ホームページ」をご覧ください。

編：認定を受けることで、医師の皆さんにとっても医療機関にとってもメリットが多いですね。

村川さん：はい。医師が少ない地域では「1人でも多くの医師に来てほしい」と切望されています。ぜひご活用ください。